

出水せる隅川坑

遭難者五名を出す

舊平坑の水がぬけたらしい

需械ポンプの無いのが遺憾

石城郡好間村の隅川坑新
斜坑内に去三日午後四時頃
俄然出水し折衝作業中の坑
夫二百余名に大狼狽を演ぜ
しめたが水は同坑の後向坑
六昇より出たもので

入坑者

は急を知らず
同時に人道坑より避難上坑
せむも遂に五名の生死不明
ある爲め排水救助に努力の
結果四日前十一時に至り
池田忠次郎(三)市川正一(

死体を

発見したが尚
ほ左記三名を残してゐるの
で晝夜兼行の排水と共に決
死隊を組織捜査中であつて
同坑口には遭難者の家族近
親其他宛然

戦場の

様な混雑を呈
してゐるが残るものが運よ
く水没地帯を避けて左一坑
の奥深い高位置に居れば生
命を取止め得るやうにも想像
されてゐるけれども隣接廢
坑半炭礫に充満せる水がぬ
けたらしい其水が不祥で
あるのと

通風を

絶たれた爲に
瓦斯が発生し加ふるに完全
な排水ポンプをもたぬこと
を其筋からも遺憾とされ尚
ほ同坑の損害は莫大に上る
ものと見られてゐる。

徴兵検査で

若干賑ふ
平町夜の南町
と洋食店等々

難産の

役場新築に
漸く巨鼻が着く

清水氏に

賣渡する現敷地
に就て今四日建築委員会

南町裏

火の見下を四

丁日百澤易氏に所望され
て渡せるを初の現役母敷
で買つた千六百十坪を譲
つたこととなつた。是れも
清水院の希望によつて一
坪當り五十圓の内約を盤
既に土木委員会の
同意を経たので四日
午後一時町長室に左記役場
建築委員会を開き之れを
満場一致の承認を得て來る
七日の本會議に附する段取
りまでに進んだが更に百澤
氏から元水道事務所協の
大物として字仲町に最初の
役場移轉敷地に見込み三萬

好債に

買入れる者が
あれば分譲渡差支なき万
針の様であるから遂からず
片付くものと見られてゐる
而して役場移轉敷地は既に
新川南部に決定し地主との
交渉も済んでゐるので實現
難を唱ひられた新廳舎建築
に漸く巨鼻がついて來た模
様である。

残地其

他所望され
てゐるらしく右土地處分の
大物として字仲町に最初の
役場移轉敷地に見込み三萬

縣下藥劑師大會へ

石城郡藥劑師會では来る十度決算の外
三日午後一時白河町に開催
される縣藥劑師大會へ廿余
名の代表として左記六名出
席の筈であるが第五回の同
大會は五年度豫算並に前年
事務録木堅助(平)外九名並
に

十三日白河町に開催役員改選に

相當の奪取戦ある模様
重要視 されるものは
の同社と二萬圓以内位で
相談が 出來れば一ヶ
石城地方は炭礦が極度の不
況に陥り農村は米價の暴落
で加へて春蚕飼育の欠
散らした様なノミの跡何様
美しいものである。
さし柳見て居れば蚊の出
たりけり 一茶
夕空や蚊がなき出して美
しき
柳をさして置いたか根付
たか知らんと立寄つて見て
居たら蚊が一つ出て來たと
云ふ處柳をさして置く所は
泥溜の邊りか。
蚊の鳴き出す刻限には夕空
の色も淺翠りが益々さえて
美しうなつた。

豫想す

同方部左記
五名の町會議員が地内の目
障りとされる株式會社平屠
畜場を町營に買収して置け
ば他日多大な移轉料を要せ
ざるのみならず二萬五千圓
の同社と二萬圓以内位で
相談が 出來れば一ヶ
石城地方は炭礦が極度の不
況に陥り農村は米價の暴落
で加へて春蚕飼育の欠
散らした様なノミの跡何様
美しいものである。
さし柳見て居れば蚊の出
たりけり 一茶
夕空や蚊がなき出して美
しき
柳をさして置いたか根付
たか知らんと立寄つて見て
居たら蚊が一つ出て來たと
云ふ處柳をさして置く所は
泥溜の邊りか。
蚊の鳴き出す刻限には夕空
の色も淺翠りが益々さえて
美しうなつた。

失業者の頼る

求人減に大弱
元坑夫の失業者

悲話慘話

石城郡内郷村を去六月二十
六日午後九時頃二尺九寸の
櫻の仕込杖を所持して徘徊
する不審の男を平署員が檢
査取調中であつたが同人は
双葉郡富岡町の小良濱字清
水前七〇四生れ住所不定並
稱二犯遠藤清(三)と稱し茨
城縣多賀郡内に炭坑坑夫を
なしたるも同郡大倉坑の
大整理で失業せる爲め栃木
縣足尾銅山其他を經廻り石
城地方に職を探してゐるも
のと判り放逐した。

不審の男

元坑夫の失業者

現況に

於て斯うした
人々の頼りの綱は職業紹介
所ではあるが之れとて日頃
は求人のないに困らされ
てゐる同所第二期及び本年
上半期の業績は左の如くで
ある。

第二期自四月至六月末
人三六七(男三二四、女
四三) 求職二四五(男二
〇四、女四一) 就職一三
六(男一二五、女一一) ▲
上半期求人六三六、求職
六五七 就職二三八以上

好債に 買入れる者が
あれば分譲渡差支なき万
針の様であるから遂からず
片付くものと見られてゐる
而して役場移轉敷地は既に
新川南部に決定し地主との
交渉も済んでゐるので實現
難を唱ひられた新廳舎建築
に漸く巨鼻がついて來た模
様である。

屠畜場町營の動議

東部議員の將來策とし
て來る町會に出る模様

意向は

縣下九十余名
の會員の中卅名を有するの
で會長を獲得されなければ
ついでに

怒みに

満たされ比較
的金融好調を唱ひられた平
町にも最近では夜中密かに
六錢分の白米を求めに來た
一家六名二日間の絶食に泣
く日履業や生後四ヶ月の
愛兒を 他人に託して
稼いで居た女が仕事がない
ので養育料の支拂に窮し家
財を盡んで嬰兒を預けたま
ゝ夜逃げせるもの等々血の
滲む悲話慘狀が非々現はれ
る様になつた

現況に

於て斯うした
人々の頼りの綱は職業紹介
所ではあるが之れとて日頃
は求人のないに困らされ
てゐる同所第二期及び本年
上半期の業績は左の如くで
ある。

失業者の頼る

求人減に大弱
元坑夫の失業者

悲話慘話

石城郡内郷村を去六月二十
六日午後九時頃二尺九寸の
櫻の仕込杖を所持して徘徊
する不審の男を平署員が檢
査取調中であつたが同人は
双葉郡富岡町の小良濱字清
水前七〇四生れ住所不定並
稱二犯遠藤清(三)と稱し茨
城縣多賀郡内に炭坑坑夫を
なしたるも同郡大倉坑の
大整理で失業せる爲め栃木
縣足尾銅山其他を經廻り石
城地方に職を探してゐるも
のと判り放逐した。

不審の男

元坑夫の失業者

現況に

於て斯うした
人々の頼りの綱は職業紹介
所ではあるが之れとて日頃
は求人のないに困らされ
てゐる同所第二期及び本年
上半期の業績は左の如くで
ある。

失業者の頼る

求人減に大弱
元坑夫の失業者

第二期自四月至六月末
人三六七(男三二四、女
四三) 求職二四五(男二
〇四、女四一) 就職一三
六(男一二五、女一一) ▲
上半期求人六三六、求職
六五七 就職二三八以上

好債に 買入れる者が
あれば分譲渡差支なき万
針の様であるから遂からず
片付くものと見られてゐる
而して役場移轉敷地は既に
新川南部に決定し地主との
交渉も済んでゐるので實現
難を唱ひられた新廳舎建築
に漸く巨鼻がついて來た模
様である。

屠畜場町營の動議

東部議員の將來策とし
て來る町會に出る模様

意向は

縣下九十余名
の會員の中卅名を有するの
で會長を獲得されなければ
ついでに

怒みに

満たされ比較
的金融好調を唱ひられた平
町にも最近では夜中密かに
六錢分の白米を求めに來た
一家六名二日間の絶食に泣
く日履業や生後四ヶ月の
愛兒を 他人に託して
稼いで居た女が仕事がない
ので養育料の支拂に窮し家
財を盡んで嬰兒を預けたま
ゝ夜逃げせるもの等々血の
滲む悲話慘狀が非々現はれ
る様になつた

現況に

於て斯うした
人々の頼りの綱は職業紹介
所ではあるが之れとて日頃
は求人のないに困らされ
てゐる同所第二期及び本年
上半期の業績は左の如くで
ある。

失業者の頼る

求人減に大弱
元坑夫の失業者

悲話慘話

石城郡内郷村を去六月二十
六日午後九時頃二尺九寸の
櫻の仕込杖を所持して徘徊
する不審の男を平署員が檢
査取調中であつたが同人は
双葉郡富岡町の小良濱字清
水前七〇四生れ住所不定並
稱二犯遠藤清(三)と稱し茨
城縣多賀郡内に炭坑坑夫を
なしたるも同郡大倉坑の
大整理で失業せる爲め栃木
縣足尾銅山其他を經廻り石
城地方に職を探してゐるも
のと判り放逐した。

不審の男

元坑夫の失業者

現況に

於て斯うした
人々の頼りの綱は職業紹介
所ではあるが之れとて日頃
は求人のないに困らされ
てゐる同所第二期及び本年
上半期の業績は左の如くで
ある。

失業者の頼る

求人減に大弱
元坑夫の失業者

第二期自四月至六月末
人三六七(男三二四、女
四三) 求職二四五(男二
〇四、女四一) 就職一三
六(男一二五、女一一) ▲
上半期求人六三六、求職
六五七 就職二三八以上

好債に 買入れる者が
あれば分譲渡差支なき万
針の様であるから遂からず
片付くものと見られてゐる
而して役場移轉敷地は既に
新川南部に決定し地主との
交渉も済んでゐるので實現
難を唱ひられた新廳舎建築
に漸く巨鼻がついて來た模
様である。

屠畜場町營の動議

東部議員の將來策とし
て來る町會に出る模様

意向は

縣下九十余名
の會員の中卅名を有するの
で會長を獲得されなければ
ついでに

怒みに

満たされ比較
的金融好調を唱ひられた平
町にも最近では夜中密かに
六錢分の白米を求めに來た
一家六名二日間の絶食に泣
く日履業や生後四ヶ月の
愛兒を 他人に託して
稼いで居た女が仕事がない
ので養育料の支拂に窮し家
財を盡んで嬰兒を預けたま
ゝ夜逃げせるもの等々血の
滲む悲話慘狀が非々現はれ
る様になつた

現況に

於て斯うした
人々の頼りの綱は職業紹介
所ではあるが之れとて日頃
は求人のないに困らされ
てゐる同所第二期及び本年
上半期の業績は左の如くで
ある。

失業者の頼る

求人減に大弱
元坑夫の失業者

悲話慘話

石城郡内郷村を去六月二十
六日午後九時頃二尺九寸の
櫻の仕込杖を所持して徘徊
する不審の男を平署員が檢
査取調中であつたが同人は
双葉郡富岡町の小良濱字清
水前七〇四生れ住所不定並
稱二犯遠藤清(三)と稱し茨
城縣多賀郡内に炭坑坑夫を
なしたるも同郡大倉坑の
大整理で失業せる爲め栃木
縣足尾銅山其他を經廻り石
城地方に職を探してゐるも
のと判り放逐した。

不審の男

元坑夫の失業者

現況に

於て斯うした
人々の頼りの綱は職業紹介
所ではあるが之れとて日頃
は求人のないに困らされ
てゐる同所第二期及び本年
上半期の業績は左の如くで
ある。

失業者の頼る

求人減に大弱
元坑夫の失業者

第二期自四月至六月末
人三六七(男三二四、女
四三) 求職二四五(男二
〇四、女四一) 就職一三
六(男一二五、女一一) ▲
上半期求人六三六、求職
六五七 就職二三八以上

改革概論(三)

第四章 父母兩性

共同主義

男女共學主義

ところがまた生徒がやつて来て、これは學級全体の希望であり、うしろも私共は先生をもう少し樂にさせてあげたいから今の五人か六人の意地張りの子供を先生のお産が濟むまで他の學級へ預けて頂きたい云々

而して職員會の結果は畢竟我々のやつて居る實驗學校の成功だといつて其生徒の希望を容れてやつた云ふことであり、私が私之によつて分婉前に於ける女教員の苦痛や影響が甚大であると云ふことに同情もし考慮もされ、かうした例は日本にも決して少なくないと思はれます。

次に新しい研究として我國に於ても模倣しやうとする教育家もある、このゲームインシャフツ、シニールに於て五六人の手に負へない意地張りの子を出したと云ふ其成績はどう見るべきものか、又産後復級した其五六人の生徒と其先生との關係はどうであるかなど、いふことを考へる時に斯うした新式も案外價值のない様に思はれ、且つ其女教員の價値も疑はるゝのであります以上は産前問題でありま

すが、産後子持教員となつてはどうかと申しますに、學齡前の兒童や乳呑兒を家庭に置いて出勤する女教員が心魂を打ち込んで教職をとることが出来ませうか。夕まくれ幼児等が門邊に立つて慈母のかへりを鶴首して待つことを思ふ時に何を指しても歸宅を急ぐのは人情であります、ルゾーは別母には母親の如き愛撫が伴はない、自分の子にのませる乳を以て他人の子どもを育てる様な女はよくない母である云々といつて居りますが其筆法から云へば我々の教育をかへりみないでの子を教育する様な母はよくない母であるのであります、仙臺萩の政岡は當時の仙臺藩にはなくてはならぬ烈婦であつたのであり、それが現代に於てはかうした父母や女教員は望ましくないのであります。

恐怖時代の

動脈硬化症新藥

アイヨール錠

試用二圓
中瓶六圓
大瓶廿圓

發賣以來

白熱的に

特約店

山野邊藥局

平町五丁目

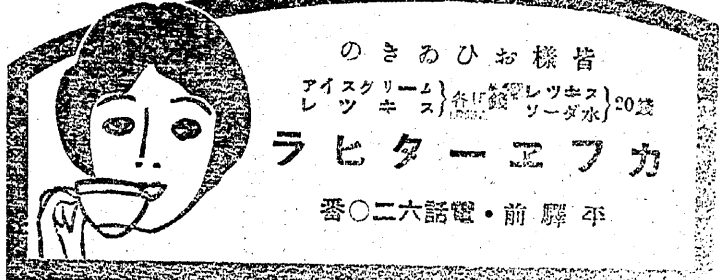
ライト 寫眞館

平町才樋小路
電話八四七番



内外科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

平町・電話五二三番
院長醫學士高久忠



皆様のひまのき
アイスクリーム、ジュース、デザート
ラヒターエフカ
番〇二六話電・前驛平

御料埋 尼忠

面白く
お安く

平新田町
電話八六五番



いつも生ビールがおいしく
キレいな座席で、おしゃべり
フラスコ料理の献立

サロンの
電話三五三二
平町

初夏の御用意はツヤルヤ

新緑の初夏が訪れました
帽子、シャツ、ネクタイ
靴下、パラソル、日傘等

實用品や高級品の数々が
豊富に陳列されました
旅行や外出時の装身具
軽快なステッキまで
省の散歩にはゼヒツルヤへ

平町四丁目
電話一四〇
ツルヤ

磐城代表 銘酒

美味経済 味経済
ヤマザキ醤油油

山崎合名社
電話十番

豆と晒あん

● 北海道のよいお豆
● 純小豆製のよい晒あん

お電話なり下さり
は多少に拘らずお
届申上げます。

田巻隆一商店
平町紺屋町十三・電話九〇八

よろこびごさいますか
うチりますよ

中島寫眞館
平町字田町

本の 蔵 冷 器

製造元 丸 平 三丁目 電話三五九番

和洋金銀 寶 高 高 高

良品廉價 高 高 高

高 高 高